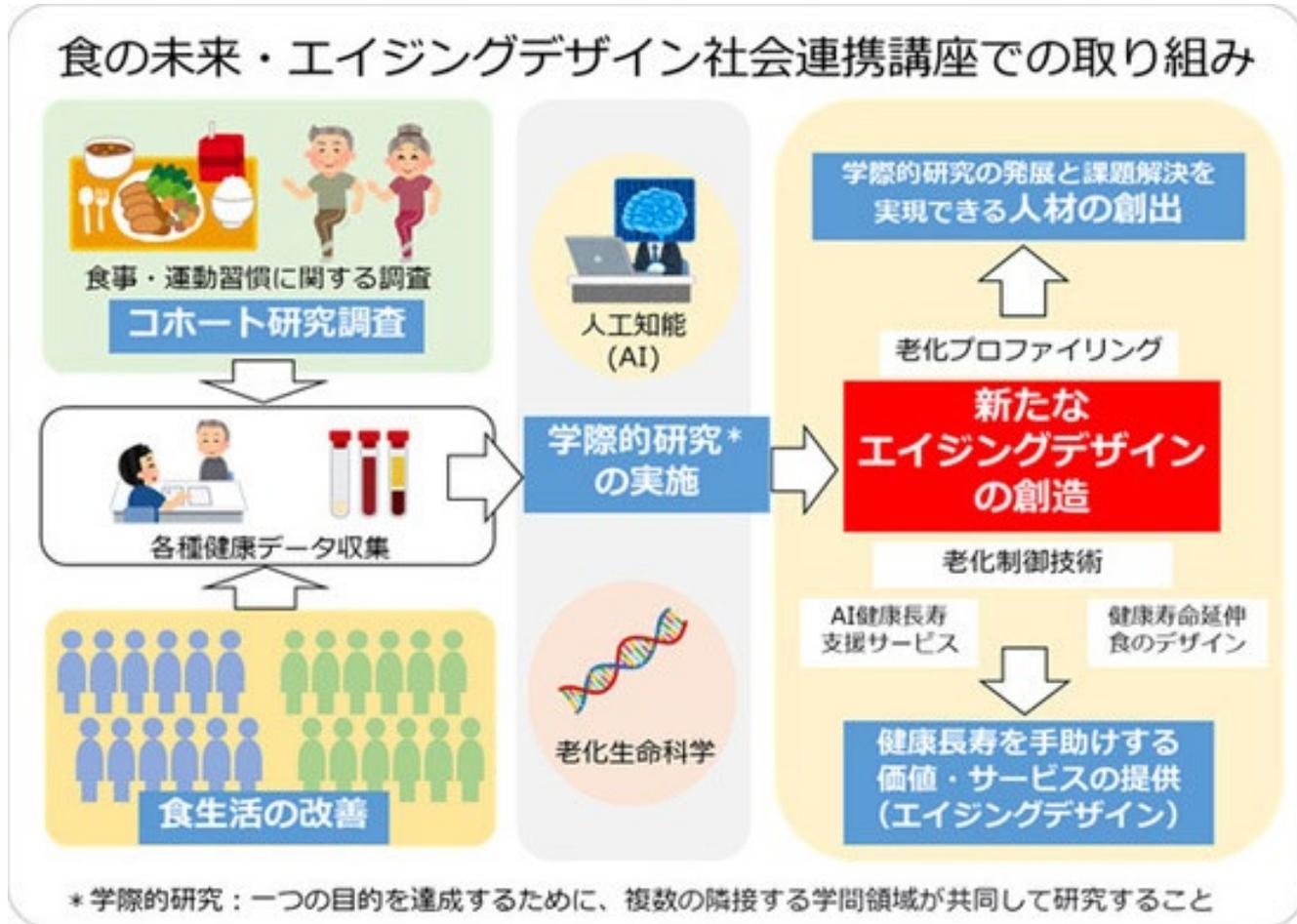


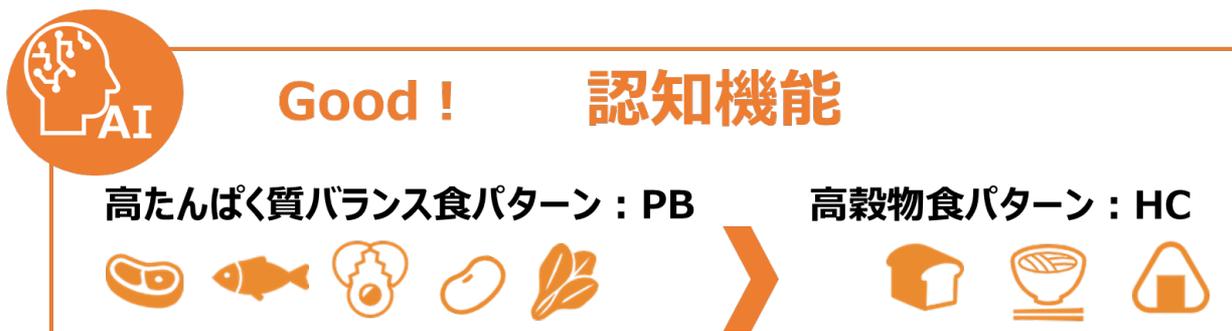
# 老化制御に関するメカニズムの解明等を目指す 「食の未来・エイジングデザイン研究」 東京大学との産学連携

加齢による衰えを最新科学でコントロールする—そんな夢のようなプロジェクトが、東京大学大学院新領域創成科学研究科で進められています。日本ハム（株）は、同研究科に「食の未来・エイジングデザイン研究」社会連携講座を設置し、中高齢者を対象とした健康情報の収集や食生活の改善につながる食事介入試験を実施。試験によって得られたデータは、AI技術を駆使して網羅的に解析していくとともに、老化制御に関するメカニズム解明や老化指標の特定につなげていきます。これらによって、高齢者が自ら健康長寿を実現（エイジングデザイン）できるサービスの提供を目指します。



## 日本の高齢者における食事パターンと認知機能の関係

当社会連携講座では、日本の高齢者における食事パターンと認知機能の関連性を探る研究を行っています。クラスター分析により、高炭水化物（HC）パターンとタンパク質バランス（PB）パターンの2つの食事パターンを特定しました。PBパターンは、豆類、野菜、魚、肉、卵を多く含み、認知機能がHCパターンよりも有意に高いことが分かりました。さらに、他の新たな高齢者を対象にした検証でも、PBパターンが認知機能の向上に寄与することが確認されました。この結果は、タンパク質を豊富に含むバランスの取れた食事が日本の高齢者の認知機能に有益であることを示唆しています。今後は、日常の食事パターンをより良い方向に変更できるように、積極的に介入していく実証試験を行う予定です。



特許出願（2023年3月、東京大学との共同出願）  
論文化 (K.Sakurai et al, Nutrients. 2023 Feb 2;15(3):770.)